

## 住宅建築賞2024

**審査員** 審査員長:吉村 靖孝  
審査員:大野 博史/倉方 俊輔/中川 エリカ/西沢 大良

**主催** 一般社団法人 東京建築士会

**企画** 東京建築士会 事業委員会

**後援予定** 公益社団法人 日本建築士会連合会  
一般社団法人 東京都建築士事務所協会  
一般社団法人 日本建築学会 関東支部  
公益社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部  
株式会社 新建築社  
株式会社 エクスナレッジ

**協賛** 株式会社 市浦ハウジング&プランニング  
環境・省エネルギー計算センター  
株式会社 建築資料研究社  
株式会社 総合資格  
飛鳥建設 株式会社  
株式会社 ピアレックス・テクノロジーズ  
株式会社 豊和

### お問合せ先

一般社団法人 東京建築士会  
中央区日本橋富沢町11-1 富沢町111ビル5階  
TEL:03-3527-3100 FAX:03-3527-3101  
[E-mail] event02@tokyokenchikushikai.or.jp  
<https://tokyokenchikushikai.or.jp>



©田村 将太郎



©高野ユリカ

# RESIDENTIAL ARCHITECTURE PRIZE

住宅建築賞2024入賞作品集

### 住宅建築賞 入賞者

#### 住宅建築賞 金賞

増田 信吾 + 大坪 克亘 + 湯原 彰一 /  
荒木 美香 / 廣橋 利昭

#### 住宅建築賞

針谷 将史  
向山 裕二 + 上野 有里紗 + 笹田 侑志  
湯浅 良介  
御手洗 龍



# 住宅建築賞 入賞作品

2024年 | 一般社団法人 東京建築士会

## 応募主旨

審査員長 吉村 靖孝

## 【東京のローカリティ】

本賞は「新人建築家の登竜門」を謳う賞で、過去の受賞者のその後の活躍を見れば看板に偽りなしと言える。ただ、昔から気がかりだった事がひとつあって、それは、東京周辺以外の住宅作品を審査対象から除外して来た事だ。もちろん、大前提が“東京”建築士会の顕彰活動であるし、現地審査を一日で終えるなどの条件から考えても東京周辺限定は致し方ないのだが、一方で、新人建築家にとって東京に作品があることは単なる偶然でしかないし、仮に東京在住かつ東京建築士会会員であっても東京に作品がなければ応募できないといった矛盾もある。登竜門として全国的知名度を得た今となっては、東京限定の募集はどこかちぐはぐで、東京一極集中に対し無批評かつ無責任にも映るし、とすれば東京＝全国と吹聴しているかのような誤解を与えかねない。

であるならば逆に、今回はいつそのことこの住宅建築賞を「東京のローカリティ」を考える機会と捉えてみたい。localの語源はラテン語のlocus（～の場所）で、つまり特定の場所に根ざすことこそが肝心で、必ずしも「地方の～」を意味しない。世界随一のメガシティであることとローカルであることは矛盾しないのである。また特に近年は、感染症や戦争が各地のローカリティを蹂躪する様を目の当たりにし、私自身もローカリティについて考える機会が増えている。はたして「東京のローカリティ」は可能か。もし可能ならばそれはどのようなものなのか。「場所」としての東京の可能性を押し広げるような作品の応募を期待している。

## 応募要項

- 上記の主旨にかなうもの
- 一戸建住宅、集合住宅及び併用住宅等とする(大幅な増改築、公共の建築も含む)
- 原則として作品は下記提出期限日より3年以内に竣工したもの
- 雑誌等に発表したものでもよい
- 建築物の所在地は1都3県(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県)とする
- 応募の点数は自由とする
- 審査員の関与した作品は応募できない
- 応募者は予め建築主(所有者)・施工者の了解を得て応募すること
- 応募作品の確認申請及び検査済証が必要。応募作品が確認申請不要物件の場合は遵法であること

## 応募要件

賞の対象 | 設計者・建築主・施工者の3者を顕彰するものとする。

応募資格 | 応募作品を設計した建築士資格を有し、建築士会正会員である者  
登録料 本会正会員:無料(申込時に入会した方を含む)  
他道府県 建築士会 正会員:1点につき5,000円(作品を郵送する場合、登録料は現金書留にてお送りください)

提出資料 | ・本会指定申込書 ・本会指定A2 版台紙 ・確認申請および検査済証のコピー(確認申請不要物件は、不要理由を明記した文章)  
図面及び完成写真数点(内・外観)、平面図、立面図、断面図、配置図、設計主旨(300字以内)等をA2版台紙一面(本会指定の用紙・紙づかい、パネル化しない)におさめること。なお、写真の大きさ図面等の縮尺及びレイアウトは自由とする。プレゼンテーションの表現自体は、審査の対象としない。

提出資料取得方法 | 申込書及び本会指定A2版台紙は本会事務局において頒布します。郵送希望の場合は、宅配便着払いにてお送りできます。専用申込フォーム(右記QRコード)にてご請求ください。  
※土・日・祝日の発送は行っておりません。原則即日発送は致し兼ねますので、お時間に余裕をもって請求ください。



提出先・問合先 | 一般社団法人東京建築士会 住宅建築賞係  
〒103-0006 中央区日本橋富沢町11-1富沢町111ビル5階 TEL 03-3527-3100

提出期限 | 2024年2月9日(金) 窓口へ直接お持込みの場合は、2月9日(金)17:00迄とする。郵送の場合は、2月9日の消印有効。

## 審査員

審査員長 | 吉村 靖孝

審査員 | 大野 博史／倉方 俊輔／中川 エリカ／西沢 大良

## 審査

1 | 書類審査に通過したものは原則として現地審査する。 ※現地審査はマスク着用の上、手指消毒等の感染対策を行い訪問いたします。

2 | 入賞発表 2024年4月下旬  
・審査結果については、応募者に直接通知する  
・応募者は審査結果について異議を申し立てることができない

表彰及び賞金 | 1 | 入賞者(5点以内)に対し賞状(盾)及び賞金を贈り、入賞者の中から特に優れたものには金賞を贈る。  
住宅建築賞 70,000円 住宅建築賞金賞 150,000円  
2 | 建築主、施工者には入賞を記念する盾を贈呈する。  
3 | 表彰式:本会定時総会の席上(6月上旬開催予定)

応募図面の取扱い | 1 | 応募A2版台紙の公表及び出版の権利は主催者が保有する。  
2 | 入賞作品は本会ホームページ及び会報等に掲載する。また、入賞作品展(公開展示:8月開催)の予定がある。  
3 | 入賞作のうち、東京都内に建築されたものの中から1点を「関東甲信越建築士会ブロック会」の優良建築物表彰候補作品として、推薦することがある。  
4 | 応募作品は返却しない。

## 審査結果(2024年 住宅建築賞)

応募点数 68点 住宅建築賞 入賞5点(内金賞1点)

住宅建築賞金賞	窓の庭 (千葉県)	■設計者:増田信吾+大坪克亘+湯原彰一(増田信吾+大坪克亘建築設計事務所)／荒木美香(合同会社Graph Studio)／廣橋利昭(株式会社広橋工務店) ■建築主:小滝柊兵+小滝一寿美 ■施工者:株式会社広橋工務店(建物構造:木造)
住宅建築賞(受付順)	安部邸 (埼玉県)	■設計者:針谷将史(針谷将史建築設計事務所) ■建築主:安部望 ■施工者:株式会社まつもとコーポレーション(建物構造:鉄骨造)
	残像の家 (東京都)	■設計者:向山裕二+上野有里紗+笹田侑志(株式会社ウルトラスタジオ一級建築士事務所) ■建築主:藤村直輝+藤村怜子 ■施工者:水沢住宅建築株式会社(建物構造:木造)
	FLASH (神奈川県)	■設計者:湯浅良介 ■建築主:佐藤裕 ■施工者:株式会社安池建築工房(建物構造:木造・軸組工法)
	Grove(グローブ) (埼玉県)	■設計者:御手洗龍(株式会社御手洗龍建築設計事務所) ■建築主:株式会社ディー・エヌ・ケー ■施工者:日南鉄構株式会社(建物構造:鉄骨造)

## 参考資料

一次審査結果 2024年2月22日(木)実施。応募作品68点より、1人7点～10点を投票

## 【投票内訳】

投票した作品番号

審査員	作品番号									
吉村	4	5	8	23	31	41	42	47	51	60
大野	4	20	21	23	38	40	58	60	—	—
倉方	5	32	34	41	42	51	60	—	—	—
中川	9	23	28	38	40	41	51	—	—	—
西沢	8	19	23	35	38	51	55	—	—	—

投票結果

(計22点)

獲得票数	作品番号	合計
4票	23、51	2作品
3票	38、41、60	3作品
2票	4、5、8、40、42	5作品
1票	9、19、20、21、28、31、32、34、35、47、55、58	12作品

投票で選出した22作品より議論のうえ、下記5作品を一次審査通過とし、二次(現地)審査対象とした。二次(現地)審査は、3月3日(日)に実施した。

23 38 41 51 60



一次審査風景

2024年の住宅建築賞は、2023年と同じ「東京のローカルティ」をテーマに掲げたところ総数68点の応募を得ることができた。昨年は審査員長をつとめる私の病気により一次審査、二次審査を欠席せざるを得なくなり、関係者の皆様には大変なご迷惑をおかけしたのだが、今年は期待を大きくうわまわる気づきを得た。それがどのような徴候だったのかというと、「東京のローカルティ」という都心偏重とも捉えられかねないテーマを掲げながら、現場が郊外に集中した点である。実際にはバスでまわるのだが、最初に神奈川を見て、埼玉で二件、千葉で一件とまわって、非常に大きな円を描き東京の郊外に至った。最後に見た「残像の家」の家主にはほんとうに申し訳ないのだが、すっかり日が暮れ暗くなっていたのである。なぜここまで郊外に集中するのか。ひとつは都心で土地を買えなくなったということだろう。ヘタ地や旗竿敷地なども一巡して手がでなくなっている。そしてそれに追い打ちをかけるようにコロナ禍で都心幻想がなくなり、郊外で豊かな暮らしを送るということだろう。つまるところ、都心に見切りをつけて郊外が主戦場になったのだ。

ここで二次審査に残った5件について述べておきたい。「FLASH」は田園のなかに建っている。自分が設計者ならその風景に配慮すべきと思ったが、この作家は徹底して内側を見た。エントランスやキッチンが将来家具工房やカフェに変わるかもしれないことから住宅に公共性を持ち込んだのである。いちいち寸法確認をするのは建築家の初源を知るようだ。好感を超え畏怖すら感じるほどである。「Grove」は埼玉県内のとある駅から10分ほどの土地に建つ。錆止め塗装を思わせる見慣れない鉄骨構造のあいだをグレーのボリュームが貫く。隣地が駐車場で開けているおかげで構成が読み解けるのだが、サイトのドロイングを思わせる意欲作である。「安部邸」は埼玉県内に建っている。真ん中に十分な大きさの四角い広場を持っていて、周囲を不形成のラーメン構造が囲んでいる。このプランを成立させる鍵は、裏のない平面形状だがそれがうまくリズムを刻んでい

る。「窓の庭」はチャボ一羽によって激変を遂げた家である。長手を貫く大きな梁と、上に行くときどき広がる小さな箱のコントラストが良い。「残像の家」はこの5作品のなかでもっとも内外を繋ごうとした作品である。カラフルな内側と白い外側を斜めの壁が横切る。開口部の右端はマジックミラーのフェイクだというのも面白い。

さてここで最終審査を行うことになるのだが、審査員満場一致で「窓の庭」に金賞を贈りたいということで決着した。「窓の庭」は建築家の職能を思い起こさせてくれる快作である。夫婦ふたりともバードウォッチングが趣味であるが、コロナ禍で家にいる時間が長くなり、心身に支障を来していた。そこで建築家はチャボを養う「仕事」をつくったのである。敷地には高低差がのこっており、できるだけ基礎を小さくつくってその起伏を楽しむことができる。周囲を回れるのも気が利いている。上に行くときどき膨らむ小さな箱は、外から見ると地面と向き合うような距離にあり、背が低くなってチャボしか通れないエリアは、チャボの聖域のようで興味深い。またこの家はチャボ一羽がすべての起点だが、それがよくわかるのが対称にできていることだ。チャボの巣から線対称なのだ。線対称というロバート・ヴェンチューリが多用した手法であることが思い起こされる。要するにポストモダンなのである。そう思って作品を振り返ると「残像の家」は色が空間を凌駕しているような作品である。艶まで完全にコントロールされた色たちが、暖色寒色を問わず空間を跋扈している姿はポストモダンと言っても差し支えないだろう。「FLASH」も徹底して455のグリッドを用いることで、モダニズムにはない、ポストモダン＝クラシカルともいべき質を獲得している。なぜこれほどまでにポストモダンが流行っているのだろうか。まずモダニズムの疲弊があるのだろう。そしてコンピュータによるスタディの際、色や寸法のハードルが極端に下がったことも原因のひとつであるような気がする。どこかウェス・アンダーソンの映画のようでもある。これをポストモダンと言うべきか、新しい名前をつけるべきか大きな宿題をもらった。



一次審査風景

## 作品講評

2024年 住宅建築賞 作品講評

住宅建築賞 金賞

窓の庭

設計者

増田 信吾+大坪 克己+湯原 彰一(増田信吾+大坪克己建築設計事務所) / 荒木 美香(合同会社Graph Studio) / 廣橋 利昭(株式会社広橋工務店)

講評者

中川 エリカ

もともと1つだった敷地が3つに分筆された。最も北側に位置する今回の敷地は、分筆される前は木々が覆い茂る斜面の庭だったのだという。建物を建てる際、通常は造成して平坦な土地にしてしまうが、建築家は、地の表面が露出した斜面のまま建築することを決め、木造の家を浮かせた。斜面の庭は、コロナを経て施主が飼いだしたチャボの居場所になり、チャボが斜面の雑草を食べるよう毎朝庭に放つことが、施主の日課となった。建築の組み立てが、施主の生き方と一体化していくという、建築がそこにあることの説得力を感じさせる。

斜面に浮かせた木造の家は、写真で見ると、現地ではずっと大きく見えた。4つの立面に加えて、5つ目の立面と呼びたくなる斜面に沿う面には25個の小さな窓がある。家の中にいながら斜面を経験することができ、斜面はこの窓のおかげもあって、とても明るい。爽やかだといっても過言ではない。

新たに建てられた家の基礎やアプローチは、既存の擁壁と干渉しないように注意深く配置されているが、逆に言えば、存在感のある擁壁が、言われなければ気が付かないようなさりげなさを、残置されている。土地の来歴に、文字通りそのまま新しい家を重ねることにより、地形と家の関係が、とてもダイナミックで生きたものになっている。今年も「東京のローカルティとは何か?」ということも、審査員一同、自問しながらの審査となったが、この建築が指し示す東京のローカルティは、ひとつではない。

おそらく東京圏でなければ家を建てる土地だとみなされないであろうサイズと条件を、そのまま建築をつくる原動力に直結させ、魅力あるものと認知させること。地形をはらんだ土地を平面ではなく立体だと捉え、その立体に重ねるべき構造形式を



新たに考案すること。その結果、施主の生き方・ライフスタイルを誘導し、応援していること。これらは、この建築が実現しなければ気づかれず、議論されなかったであろう価値であり、今、この状況を引き出しているのは建築家の多角的かつ総合的な力量であることは疑いの余地がない。よって、満場一致で金賞を決めるに至った。



多子世帯のための住宅。矩形の諸室をずらしながら空間を数珠状に繋げ、視覚的には遮られた空間構成を実現している。円環状の空間の中心、ちょうどドーナツの穴の部分には中庭が配置され、全部屋フルハイトのサッシが計画され、内部空間を明るくしている。構造は円環の空間構成に合わせるように一筆書きのラーメン架構が屈曲しながらぐりと一周している。室内に現れるラーメン柱は使い方に邪魔にならず、拠り所となるように巧妙に位置検討がなされている。鉛直荷重は、このラーメン架構と外周胴縁部分や、中庭マリオン部分に配置されたポスト柱により支持されている。ラーメン柱とそれらのポスト柱はXYグリッドの軸で揃うように配置されており、無理のない構造を実現している。ただ、この構造形式であれば、建築の内皮と外皮はもっと自由になっても良いはずだ。建物の形が矩形で良いのであれば、そこに構造を配置することもできてしまい、印象的な屏風状ラーメン架構が不要に思えてしまう。建築と構造との高度な対話により生まれた品質の高い住宅であることは疑いの余地はないが、それをまとめ上げる力量のある建築家であるからこそ、この先にある形式について考えてみたくなる住宅作品である。



今、ポストモダニズムが気になっている人は、意外に多いのかもしれない。必要に応じたものや解釈可能なものだけではない要素が、人間に必要な自由を建築を通じて与えることができる。その可能性を追究していった1970年代後半からの「ポストモダニズム建築」の軌跡を、私は今「ポストモダニズムの歴史」(BUNGA NET連載)で言語化しようとしているし、今年の入選作のいくつかと同様の意識が感じられた。本作においては、操作的な形態と表層的な色彩が、まさにそのようなものである。それらは断片的な経験からなる感覚の調和を達成し、総体を言い当てることのできない生きることの容器を生み出している。それを可能にしているのは、丁寧に形態のスケールを決定し、素材性と共にある色彩を発現させる手事事的な設計姿勢に他ならない。第二の市場化・平準化の荒波の只中で今、住宅に何が可能なのか、改めて考えさせられる。



広大な畑の前にたつ不思議な魅力をもった住宅。通常の工事費の約半額(70万円/坪)という非常に厳しい設計条件にあるが、施主の要望は見事に満たされており(低予算、延床面積、将来的な生活変化等)、設計者の経験値の高さがうかがわれる。だがこの住宅の最大の特徴は、それらの要望を満たした上で、その先にある問題に取り組んだことにある。地表から鉛直方向に455mmグリッドを設定し、その不可視の立方格子をもとに部屋の気積や展開、外観等を決めており、まるで新築というより古い木造校舎の改修を思わせるような食堂や、未知の工房のような納屋のようなユニークな外観を生み出しているからである。455mmの理由は低予算にあるとはいえ(尺寸によって端材を使い切る)、もし低予算だけが問題なら建物がこれほど変形されることはなく、目の前の畑が捨棄されることもなく、いつの時代かわからぬ住空間に行き着くこともない。すなわちこの住宅は、経済性・機能性・立地性・時代性といった20世紀の価値観だけでは届かない建築の姿を呼び覚まそうとしたのであり、21世紀というモデルなき時代に見合った建築を追求したのである。その独自の目標設定において記憶されるべき作品。



埼玉県内に建つこの建物は、1、2階が店舗やオフィス、3、4階が集合住宅、5、6階がオーナーの住戸、そして最上階がオーナーの親の住戸と案外単純にわかれている。むしろオーナーの住居が他の用途を引き寄せているかのようである。言うなればこれは昔の日本家屋なのだ。道に面したところで商売をしていたり、書生部屋や女中部屋、あるいは下宿と呼ぶ賃貸化したスペースがある。オーナーの親の住居は隠居部屋と呼んでもいいだろう。そんな巨大な住居の立体版とすることができる建築である。豪華かどうかだけではない。この建築は見上げると軒先の仕上げが異なるし、照明もデザインが異なっている。作家は都市の立体化を目指して「あるがまま」を志したという。はたしてこの建築が都市を立体化したと言えるのかどうかはまだわからない。しかしいずれこの手法を繰り返して行くのだとして、劇場、美術館、図書館といった都市的な要素を包含した姿を見たいと思った。



窓の庭

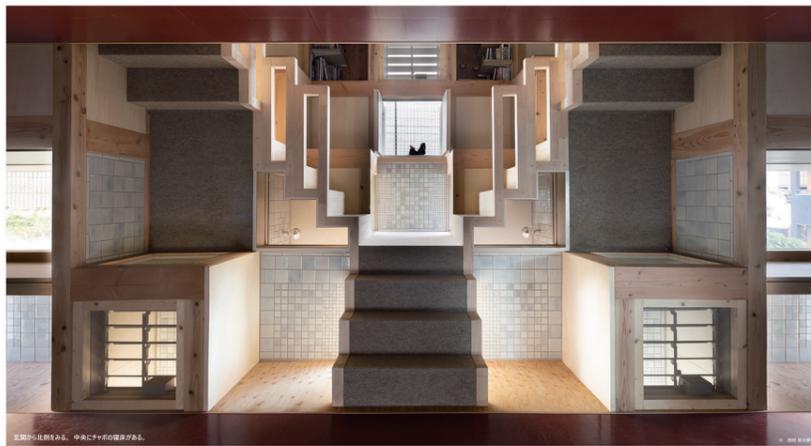
敷地に対して家が支配的にならないよう、部屋、ドア、窓、照明、階段などの様々な要素を優先順位なく同時に立ち上げることを中心、既存の斜面と一緒に生活するチャボの居場所とした。残された斜面は眺めるための庭にする必要はなく、また、窓はその斜面を眺めるために開けられるのではない。また、部屋も窓を開けるために存在しない。部屋を照らすための照明ではなく外も同時に明るくする。

残る斜面をいわゆる直にしないことが、街と生活の間にある中立的な外構になり、手元に収まっていく生活をただ開放的な窓と庭に施す趣意によって内部をただ拡げることを選んだ。斜面に張り出す住宅に開いた 25 個の小さな窓が、様々な場面で見られ、窓の先にある斜面を緩衝とし、この場所で生活していることを無理なく経験できる設計を目指した。



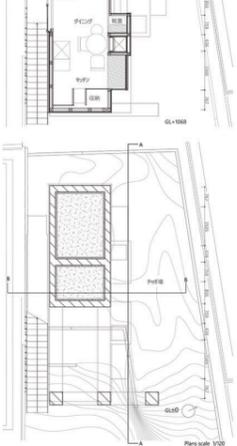
場所を残す

この地域は高低差が多く、大抵は建て替えの際に造成され、販売されていた。家は平坦な場所に効率的に建てるため、神社や大きな屋敷以外は場所と敷地の連続性が断たれ、敷地の外構は家側からの延長としてつらられる。この敷地はもとも隣 2 軒も一帯の敷地だった。隣 2 軒に大きめの建物が立っていて、この敷地はその建物の北側にある木々が多い茂る斜面だった。そこで、唯一地形に沿う道路と敷地のダイナミックな関係を残すことを念頭にここで生活を組み立てた。



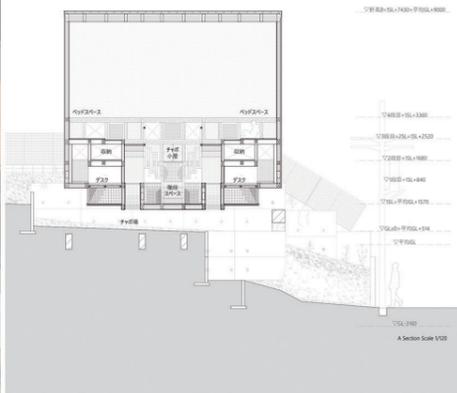
日課を作る

設計を始めたのは 2020 年後半でリモートワークも盛んになった頃だった。家で仕事できる反面、生活と仕事に切り替えや他者に会わず外出しない日々が続くことによる心身のバランスを崩す気になった。そこで、夫婦とももバードウォッチングが趣味だったため、あるとき鳥を飼いたいということが条件になった。でもインコなどのペットとしてはではなく、世話をし、卵をいただき、敷地の雑草も食べてくれるチャボと暮らすことを望んだ。朝日で起き、その足でチャボを庭に連れ、砂浴びや雑草を食べてもらう。生活のリズムを変え、日課をつくる。リモートワークできる時代だから、東京から少し離れた街でこの家「仕事」をつくった。



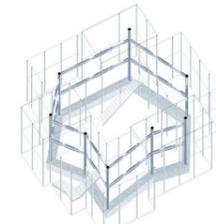
斜面に浮かせた木造住宅

敷地は起伏に富み、既存擁壁が入り組んでいる。基礎が接地出来る場所が限られ、そこから床を持ち出して浮かせることが求められた。まず裏面に通し柱を建ててブレースで安定させ、横梁を架け渡す。横梁を横にの字に組み合わせた登り梁と斜め柱を並べ、斜め柱に階段状の柱梁を接合する。そこへ梁を架け渡すことで階段状に浮いた床を形成した。この構造では、裏面のブレースが伸びないこと、横梁が水平移動しないことが重要であるため、両部材は鉄骨とした。ブレースの脚部はアンカーボルトで基礎に固定し、伸びが生じた場合はここで締め直せるようにした。横梁は H 形鋼を斜軸とし、くの字の引張力に対する変形を抑えた。基礎の接地幅を極力大きくとり、さらに小径鋼管杭を設けることで、もち出した床の反力で浮き上がりや転倒が生じないよう配慮した。



安部 邸 / Abe House

家そのものが、家族のための公共空間にはなり得るだろうか。空間と構造の新しい関係性から、家の公共性について考えてみたい。この計画は都心でも郊外でもない住宅地に建つ、6 人の家族の暮らす家。家族とは、強い結びつきがありながらも、それぞれが自立した個人の集まりである。そのような個人同士の関係を尊重し、緩密な距離と個人の距離が同時に存在する空間を構想した。複数の小さな中心と階層が、構造体によってくりとつに連なる。ここでは自律する構造体はもうひとつの「他者」となり、永続的な中庭と共に、家族とのあいだを取り持つ。その全体像は異なる複数のパースペクティブの集積によって知覚され、一時的な解釈に留まらない、多様な領域認識を得ることで、各々が自由に過ごせる環境が生まれる。生活のための器であることを超えて、人と建築が対等な関係構築したとき、家は家族の公共空間になる。



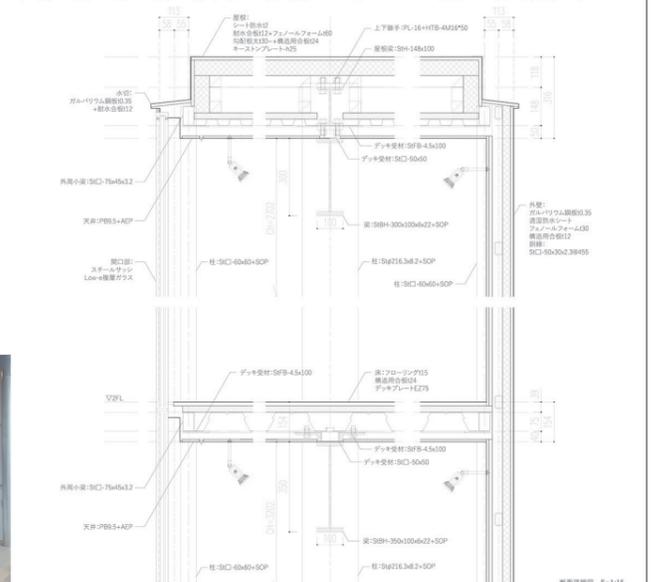
<構造ダイアグラム> 骨格状に中央に配置された円筒ラメンフレームによって、全ての水平力を負担する。



<配置計画と中庭形式> 都心でも郊外でもない住宅地に建つ。周囲にはモレールの架構や幹線道路が走り、住宅だけでなくロードサイドの店舗やオフィスビルが立ち並ぶ。既「他者」もなく内容できる風景もない状況の中、守られた家族の居場所をつくるため、小さなヴォリュームを数個配置した中庭型の配置計画とした。



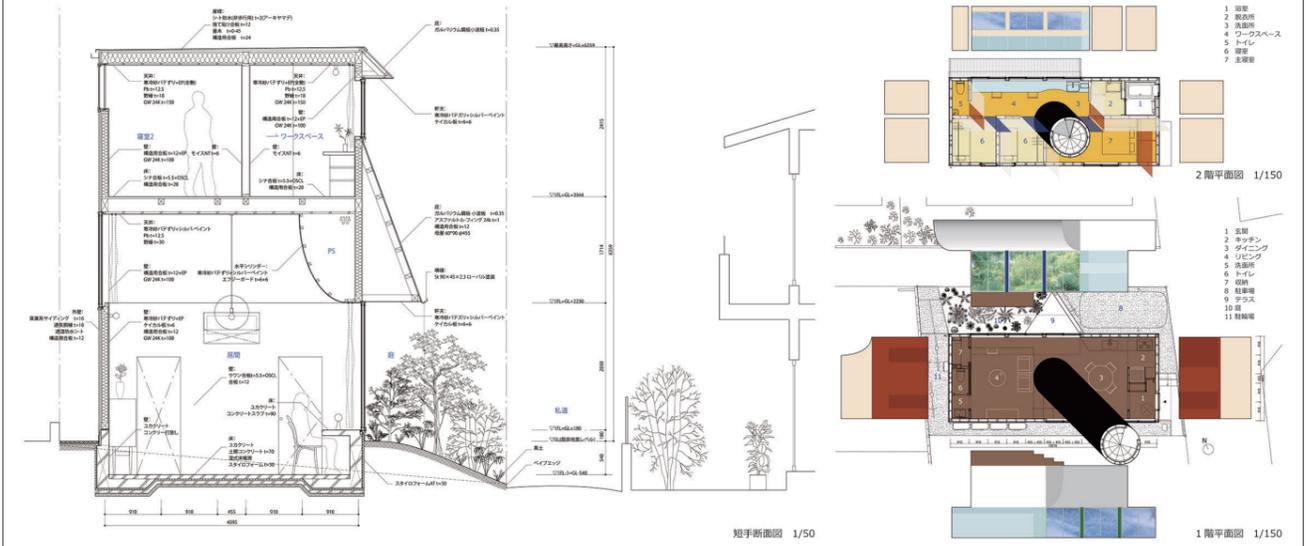
<意図と無意識のあいり/家賃の風景> 構造体は、無意識のうちでは、暮らしの中で空間を分断する風景となり、意識を向ければ、身体に寄り添う人のように感じる存在になる。





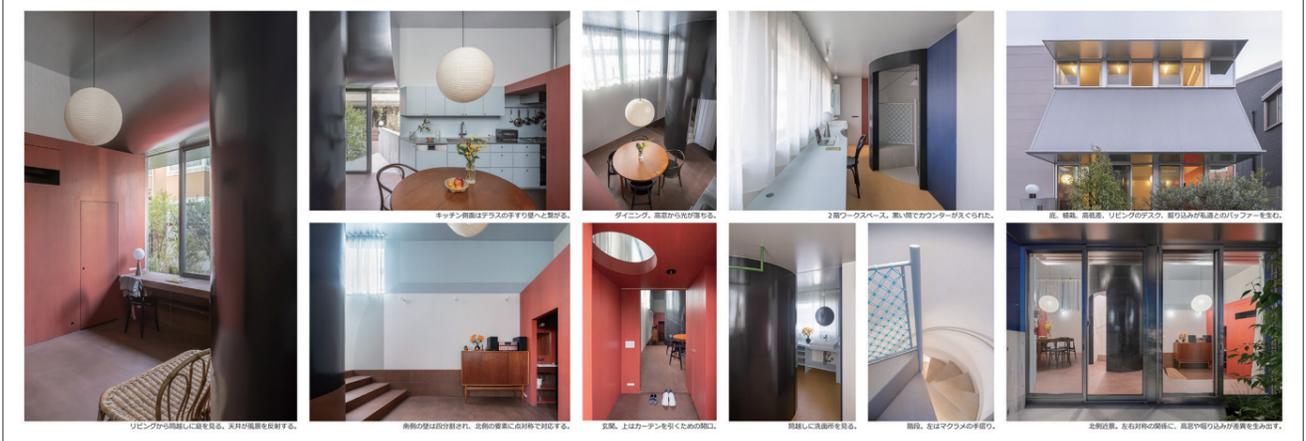
リビングの窓際からキッチン方向を見る。リビングはダイニング、キッチンから720mm 振り込んだ。ダイニングの床がリビングのデスクに繋がり、そのまま庭へと繋がる。

北側の私道に面して庭を設けている。庭の斜面は既存の土地のかたちをそのまま利用しており、テラスからダイニングにかけての床も同様に既存の土地の高さに合わせている。



知手断面図 1/50

1階平面図 1/150



**残像の家**

武蔵野台地に広がる典型的な東京の住宅地に建つ、若い夫婦と子供ひとりのための住宅。敷地は比較的人通りのある前面道路と、幅2mに満たない私道に面している。接道側とこれといった特徴が無い一方で、私道側では周辺の住宅が庭をつくり、植物を育てることで、親密な雰囲気が生み出されている。

そこで、この家の「ファサード」を前面道路ではなく私道側にずらし、庭をつくって窓を設けることで、路地の雰囲気にも貢献することにした。ファサードを割き取られた正面は、新機軸な外観で内部の構成を覆い隠す。南側の隣地は空き地だったため、南面開口を高窓に限定して将来の不確定要素の影響を軽減している。

内部では2階を扁平にして1階に4mの天井高さを与え、限られた面積に立体的な広がりを与えている。外観の無表情と対比的に、上下階を象徴的な黒い筒（螺旋階段）が結び、その周囲を装飾的な要素が取り囲む。それぞれ別の由来を持った装飾群は黒い筒の周りに見え隠れし、空間は断片的なイメージ群として認識される。

「狭小」「近隣関係」「プライバシー」「不確定要素」という都市住宅の問題系と「私的空間」を調整した結果、内部を演出しない隠されたファサードと、趣味的断片で満たされた内部空間という分割が明確になった。その上で、路地のような半プライベートな空間に向けて顔をつくることで、私的な営みが生み出す東京の都市景観に貢献している。

配置図 1/500



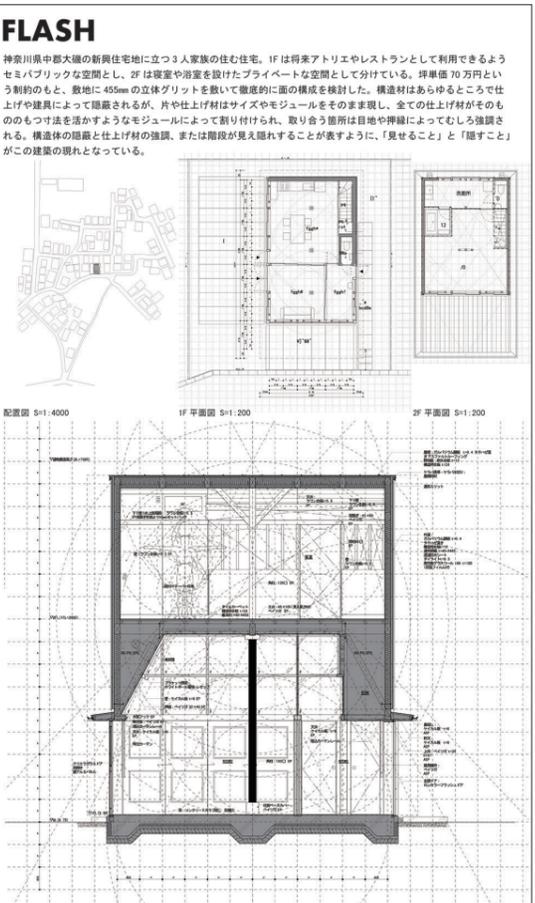
隣地と面は階段ライティングを仕立て、隣とのつながりやゆるやかなつながりを感じさせる。



(外観)「屋根のある、車1台分の駐車場がほしい」という地主の要望に応じて1階の庇を兼ね出し、軒下を駐車場とした。高上部を兼ね上げ、庇が単なる機能として見られないことを目指した。

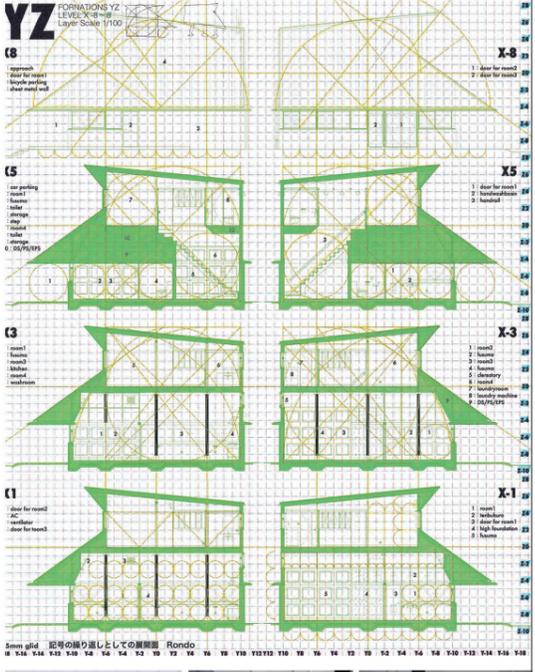


(1F) ROOMSの大きな扉には収納があり、芝へと続く階段はそこに隠されている。(階段)1Fから登っている視点。寝室、浴室といったプライベートな空間へと切り替わっていく。



**FLASH**

神奈川県中郡大磯の新築住宅地に立つ3人家族の住宅。1Fは将来アトリエやレストランとして利用できるセミパブリックな空間とし、2Fは寝室や浴室を設けたプライベートな空間として分けている。坪単価70万円という制約のもと、敷地に455mmの立体グリッドを敷いて徹底的に面構成を検討した。構造材はあらゆるところで仕上げや建具によって隠蔽されるが、片や仕上げ材はサイズやモジュールをそのまま扱い、全ての仕上げ材がそのものもつす法を活かすようなモジュールによって割り付けられ、取り合う箇所は目地や押縁によってむしろ強調される。構造体の隠蔽と仕上げ材の強調、または階段が見え隠れすることができるように、「見せること」と「隠すこと」がこの建築の視れとなっている。



(1F) 構造材は徹底的に隠蔽されるが、仕上げ材のモジュールは目地や押縁によって強調される。単純なフックや電球さえも過剰に反復されるもそれ自身の意味を超えた状態として存在する。



(2F) アトリエとしても利用される1階は人の出入りを想定した明るく活動的なセミパブリックの空間であるのに対し、浴室や寝室のある2階は家族だけのプライベートな空間として設計した。



(外観および1F) 455mmの立体グリッドを基準として反復される各単位。ガラスに反射した照明の虚像さえもが反復の一部となっている



**Grove**  
- 筋書きのない建築への試行 -

かつての町割りを崩しながら無機質な高層化が進む街の中に、開口9.1m、奥行38.4mの細長い土地が残されています。そこに、大きく外に開きながら近隣や自然環境との動的な関係を築き続ける、新しい積層建築の在り方を試みました。

7階建てのこの建物はメゾネット形式を基本として1、2階が店舗と事務所、3、4階が賃貸住宅、5、6階がオーナーの住戸、7階がオーナーのご商用の住戸で構成され、異なる用途やスケールが融合する、街がそのまま立ち上がったような建築となっています。

ここで、異なるそれぞれの場に対し、壁やブレースといった耐震要素に頼ることなくその場で自由に外部との関係を築いていくことのできる柱梁のラーメン構造を採用しました。そして細長い土地に対し千鳥状に柱を配置することで、周辺との繋がりが生まれる開かれた場を作ります。さらに長さも径も異なる角柱と丸柱が同時に立ち上がり、そこへ巨大な梁が掛けられています。このムラのある雑木林(Grove)のような構造フレームを頼りにしながら、周辺建物との距離や密度感、動線の引き込み方や光の入り方、風の抜け方、雨の受け方から緑への流し方、そして機能守法に至るまで、その部分部分の状況に応じて空間を紡ぎ出していきます。こうして半分近くが外部空間となる新たな建築を建ち上げていきます。

このアドホックな作り方によって生まれる筋書きのない建築の秩序と強度が、内外一体となった空間の中に多様で発見的な場を作り出し、ここに息づく人々の創造性を喚起していくことを期待しています。

敷地面積 355.96㎡ 延床面積 289.88㎡ 用途 店舗・事務所併用共同住宅  
構造 鉄骨造 基礎 杭基礎 建築高さ 23.34m 延べ面積 81.44% 容積率 270.55%

5F リビング 内外に連続する柱が境界を曖昧にし、内外一体的な吹き抜けとなる。上部より雨の降るような傾斜が生まれる。

2F テラス 木すりと木天井で傾斜が付けられる。

3F 階段 梁に沿って巻き上げられるラダー階段が居場所を作る。

3F テラス 木を大きく取り入れる。

1F アプローチ 歩む楽しみをいくつにならぬとへ。

平面図 scale: 1/400

## 住宅建築賞受賞者プロフィール

### 窓の庭



**増田 信吾**  
MASUDA Shingo

1982年：東京都生まれ  
2007年：武蔵野美術大学建築学科卒業  
2007年：増田信吾+大坪克巨を共同で設立  
2015年：コーネル大学 Baird Visiting Critic  
2019~2022年：明治大学特任准教授  
2023年：香港大学客員教授、ハーバード大学大学院客員教員



**大坪 克巨**  
OTSUBO Katsuhisa

1983年：埼玉県生まれ  
2007年：東京藝術大学建築科卒業  
2007年：増田信吾+大坪克巨を共同で設立



**湯原 彰一**  
YUHARA Shoichi

1984年：島根県生まれ  
2010年：北九州市立大学大学院Bart Dewancker研究室修了  
2011~2014年：Studio Mumbai Architects  
2015年~：増田信吾+大坪克巨



**荒木 美香**  
ARAKI Mika

1984年：神奈川県生まれ  
2008年：東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了  
2008~2019年：佐藤淳構造設計事務所  
2020~2023年：荒木美香構造設計事務所  
2021年~：関西学院大学建築学部准教授  
2023年~：Graph Studio



**廣橋 利昭**  
HIROHASHI Toshiaki

1961年：東京都生まれ  
1983年：日本大学理工学部建築学科卒業  
1983~1986年：矢島建設株式会社勤務  
1986年~：株式会社広橋工務店

### 安部 邸



**針谷 将史**  
HARIGAI Masafumi

1980年：栃木県生まれ  
2007年：横浜国立大学大学院工学部社会空間システム学専攻建築学コース修了  
2007~2014年：隈研吾建築都市設計事務所  
2014年：針谷将史建築設計事務所設立  
2014~2016年：横浜国立大学大学院Y-GSA設計助手  
現在、関東学院大学、日本女子大学、武蔵野美術大学、静岡理工科大学非常勤講師

### 残像の家



**向山 裕二**  
MUKAIYAMA Yuji

1985年：広島県生まれ  
2008年：東京大学工学部建築学科卒業  
2008年：渡邊健介建築設計事務所(kwas)勤務  
2011年：スイス連邦工科大学チューリッヒ校  
2012年：Christian Kerez勤務  
2013年：東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修了  
2013年：渡邊健介建築設計事務所(kwas)勤務  
2015年：DORELL.GHOTMEH.TANE ARCHITECTS勤務  
2018年：ウルトラスタジオ設立  
2021年：東京大学大学院工学系研究科非常勤講師



**上野 有里紗**  
UENO Alyssa

1986年：東京都生まれ  
2010年：ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ視覚文化論学部卒業  
2013年：AAスクール インターメディアースクール卒業  
2013年：Foster + Partners勤務  
2018年：英国王立芸術大学院大学(RCA) 建築学専攻修了  
2019年：ウルトラスタジオ参画



**笹田 侑志**  
SASADA Yushi

1987年：福岡県生まれ  
2011年：九州大学芸術工学部環境設計学科卒業  
2012年：スイス連邦工科大学チューリッヒ校  
2013年：Pascal Flammer Architect勤務  
2014年：東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻修了  
2014年：青木淳建築計画事務所勤務  
2020年：ウルトラスタジオ参画  
2021年~：東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻青木淳研究室教育研究助手

### FLASH



**湯浅 良介**  
YUASA Ryosuke

1982年：東京都生まれ  
2010年：東京藝術大学大学院美術研究科修了  
2010~2018年：内藤廣建築設計事務所  
2019年~：OFFICE YUASA  
2024年~：多摩美術大学准教授  
現在、東京理科大学、武蔵野美術大学、明治大学非常勤講師

### Grove(グローブ)



**御手洗 龍**  
MITARAI Ryu

1978年：東京都生まれ  
2004年：東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修了  
2004~2013年：伊東豊雄建築設計事務所  
2013年：御手洗龍建築設計事務所 設立  
2015~2017年：横浜国立大学大学院Y-GSA設計助手  
現在、東京大学、法政大学、日本女子大学、武蔵野大学非常勤講師

# Tokyo Bath Style

オーダーデザインユニットバスのTokyo Bath Style。

厳選したTokyo Bath Style仕様の特注ユニットバスから、  
お客さまのイメージに合わせたオーダーユニットバスまで幅広くご提供いたします。

1. 家屋の揺れにも対応する防水性能はそのままに、在来工法並みの自由度を実現
2. バスタブや水栓、タイルなどを色々なメーカーから組み合わせて、自由なレイアウトが可能
3. 柱欠、梁欠、変形形状、トップライト、斜め天井などにも対応。リフォームに最適です
4. シャワーブース併設型のバスルームなど、お客様のご要望に応じてお造りしています



**Tokyo Bath Style** 株式会社 東京バススタイル

TEL:03(3446)2492 FAX:03(3446)2493 e-mail:info@t-bath.net  
〒108-0071 東京都港区白金台5-3-7 くりはらビル2階 [営業時間]10:30~18:00 [定休日]日・祝祭日  
※カタログ資料のご請求は、「弊社HPの〈問合せ&資料請求〉」「FAX」「電話」にてお願いいたします

自由  
に  
デ  
ザ  
イ  
ン  
す  
る  
バ  
ス  
ル  
ー  
ム  
を

www.t-bath.net



**日建学院**  
55年の歴史を糧に  
業界と共に  
顧客と共に

「業界へ貢献」を理念に55年  
日建学院は頑張る全ての皆さまを  
これからも応援し続けます。

おかげさまで

# 55<sup>th</sup>

since 1969

あなたの夢、応援します。

## 日建学院

★★ お問い合わせは最寄校へお気軽にどうぞ! ★★

- 新宿校 TEL.03-6894-5800
- 池袋校 TEL.03-3971-1101
- 上野校 TEL.03-5818-0731
- 北千住校 TEL.03-6850-0120
- 新橋校 TEL.03-6858-4650
- 吉祥寺校 TEL.0422-28-5001
- 立川校 TEL.042-527-3291

ハウジング分野の専門家集団として  
人間居住の向上に貢献する

# ICHIURA

## HOUSING & PLANNING

株式会社市浦ハウジング&プランニング

本社 113-0033  
東京都文京区1丁目28-34  
tel.03-5800-0901



省エネ革命で地球を幸せに



環境・省エネルギー計算センター  
Center for Environment and Energy Conservation

運営会社：株式会社 HorizonXX (ホライズン) **HorizonXX**  
本社 | 〒171-0022 東京都豊島区南池袋3丁目15-11 TEL : 03-5944-8575

面倒で複雑な省エネ計算はすべてお任せください!

省エネ計算	住宅性能評価	CASBEE
BELS / ZEB / ZEH	東京都環境計画	フラット35
長期優良住宅	避難安全検証法	補助金申請サポート



解決のピースはトビシマにあります。



スマートな未来へ New Business Contractor

## 飛島建設



コンパクト性、静音性、安全性に優れた  
室内専用電動自動ドア  
**オートハイブリッドドア**

バリアフリー対応・停電時手動開閉可能



株式会社豊和

最高の意匠をかたちにする  
**ピアレックスRC工法**

<p><b>N-RCシステム</b> フッ素樹脂光触媒クリアー仕上げ</p> <p><b>G-PFシステム®</b> 打ち放しコンクリート調描画工法 光触媒コート仕上げ</p>	<p>NEW</p>	<p><b>N-RCシステム カラークリアー</b> フッ素樹脂光触媒カラークリアー仕上げ</p> <p>NEW</p> <p><b>G-PFシステム® 特殊描画</b> 打ち放し調多彩描画工法 光触媒クリアー仕上げ</p>
--	------------	--

**株式会社ピアレックス・テクノロジーズ**

www.pialex.co.jp  
Q ピアレックスRC工法



私の選択は間違ってた  
なかった

選んだのは、合格者の50%以上が  
進んだ王道ルートでした。

総合資格学院イメージキャラクター  
令和4年度 一級建築士試験合格  
当学院受講生・併履  
田中 道子さん

<p>平成26~令和5年度 <b>1級建築士 合格実績 No.1</b></p> <p>全国 <b>10年間</b> 合格者占有率 <b>54.8%</b></p> <p>全国合格者合計 36,470名中/ 当学院受講生 19,984名</p>	<p>令和5年度 <b>1級建築士 設計製図試験</b></p> <p>全国ストレート 合格者占有率 <b>51.8%</b></p> <p>全国ストレート合格者 1,075名中/ 当学院当年度受講生 537名</p>
--	---

★学科・制図ストレート合格者は、令和5年度1級建築士学科試験に合格し、令和5年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。 ※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会「No.1表示に関する実態調査報告書」に基づき掲載しております。 ※全国ストレート合格者数・全国合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。(令和5年12月25日現在)

**総合資格学院** 建築学部・学科の受験情報や建築系大学の検索ができる高校生向けサイトがオープン

be Architect

スクールサイト [www.shikaku.co.jp](http://www.shikaku.co.jp) [総合資格] [検索] [コーポレートサイト] [www.sogoshikaku.co.jp](http://www.sogoshikaku.co.jp)  
建設業界・資格のお役立つ情報を発信中! LINE ⇒「総合資格学院」 Instagram ⇒「sogoshikaku\_official」 X ⇒「@shikaku\_sogo」で検索!